

「命を守るために」

佐賀県 佐賀県立致遠館中学校 1年 塚原 葉音^{つかはら ほのん}

家族で車でドライブ中、我が家の恒例の車でカラオケ大会、家族対抗しりとり大会、たくさん笑いながら、ふと山の景色が目にとまり、美術の先生に教えてもらった、空気遠近法の説明を家族にしていた。手前の山には、太陽に照らされ青々とした緑の木々がたちこめていたが、その山の一部が、茶色い山肌がみえていた。木が倒れ、土砂崩れの跡だろうか。先日の地震のせいかな、それとも竜巻警報がでた大雨のせいだろうか。幸い、土砂崩れの跡の下に家は見当たらなかったが、怪我した人などがいないか心配になった。

そんなことを考えながら車で進んでいくと、目的地に着くまで、山の麓にはぼつりぼつりとたくさん民家があることに気づいた。先ほど見た土砂崩れの光景がふと頭をよぎった。賑やかな車内で、少し心がドキッとした。

土砂災害についてくわしく調べてみた。土砂災害は、大雨、地震などがきっかけで発生するようだ。大雨などが原因で山や谷の土・石・砂などが崩れ、水とまじってどろどろになり、一気に流れ出てくる現象。破壊力が大きく、速度も速いので、大きな被害をもたらす、とある。

私が住む町は山から遠く、海岸に近い。土砂災害などの警報は出たことがない。しかし、我が家には、一人で動くことができない、体の不自由な姉がいる。災害は我が家はとても敏感になる出来事なのだ。

日本にはどれくらいの土砂災害が起きてしまう可能性のある地域があるのか気になり、国土交通省のホームページで調べてみた。土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域は約69万4000区域、土砂災害特別警戒区域は約59万6000区域指定されている。かなりの数字だと思った。はるか昔、日本はユーラシア大陸の一部だったそうだ。それが長い年月の地球の活動で日本という国に別れていった。なので日本という国は、山が多く土砂崩れが起きやすいのだ。

もしも土砂崩れが起きてしまったところに家があって、体の不自由なお年寄りや、小さな赤ちゃん、障がいのある人がいたら。きっとすぐに逃げることができないだろう。とりわけ、山間部は高齢化が進んでいるとも聞く。なんだか急に胸の鼓動がドキドキ速くなった。

ドライブ中は、山の麓に打ち込んであるコンクリートをたくさん見つけた。様々な種類があった。コンクリートの中にパイプのようなものが刺さっているのも見かけた。雨水や地下水を流すものだろうか。きっと、国の方ではできる対策を、日々考え、危険な箇所に土砂災害が起きにくいようにと動いてくださっているのだろう。

大切な命を守るために。私は何ができるだろう。まずは、自分で自分の身を守れるように準備しておくこと。これが、すぐに自分でできる災害対策ではないだろうか。そこで、我が家がしている災害対策をここに五つ書きたいと思う。

- 一、自分が住んでいる地域がどんな災害が起こる可能性があるかを把握しておく。
- 二、自治体やニュースなどで、災害の情報を事前にまたは、リアルタイムでしっかりと集めているところから雨が降る、などの情報を把握しておく。
- 三、事前に避難所などのルートや場所を確認しておく。
- 四、障がいのある姉は避難するのに時間がかかるので避難レベル3または避難所が開設されると同時に避難所に避難する。
- 五、すぐに避難できるよう、災害バックを用意しておく。

実は我が家は過去すでに2回、台風による避難を経験している。幸い大きな災害にはつながらず、ほっとした。

慣れない場所での避難は疲れる。しかし、たとえそれが取り越し苦労になろうとも、何もないならそれが一番だと思う。姉の入院生活で家族がバラバラになった経験から、家族がみんなで過ごすことが本当に幸せなことだと思うからだ。

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

命があれば、住んでいた場所が、姿形がなくなってもまたたくさん思い出はつくれる。だから、災害が起きそうな可能性があるときは、大丈夫だろうと思わないで、早めに避難して欲しいと心から思う。